北九州工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	地理

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	生産デザイン工学科（共通科目）	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「高等学校　新地理A」 荒井良雄ほか(帝国書院) 編集		
担当教員	白神 宏		

到達目標

世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。
民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
世界各国の国名等の基礎的知識を習得できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	世界の資源、産業の分布や動向の概要を十分説明できる。	世界の資源、産業の分布や動向の概要をおおまかに説明できる。	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できない。
評価項目2	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について十分考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性についておおまかに考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できない。
評価項目3	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を十分説明できる。	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要をおおまかに説明できる。	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
学習・教育到達度目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。

教育方法等

概要	グローバルな視野を持った創造的技術者を育成するため、現代世界の国々についての地理的理解を図る。その際、自然環境や人間活動が社会に及ぼす影響について考察するとともに、今日の国際社会が抱える諸問題を地理的な視点で捉える。系統地理的・地誌的アプローチをする。
授業の進め方・方法	教科書の主要部分を取り上げて授業を進めるが、プリント資料等で詳しく考察する所もある。教科書を読んで予習し、初めての地名は地図帳で位置を確かめること。授業中は教科書・地図帳・プリント等をフルに活用して進めるので、ノート筆記を工夫して自分なりのノートを完成してほしい。適宜考えや意見を問うので自分なりの考えを述べる習慣をつけること。試験前は教科書や地図帳・ノート・プリントを中心に復習に努めること。普段からラジオやテレビ・新聞・書物等で地理や旅に関するものに親しんでほしい。隔週で州ごとの国名等を問う小テストを行い、9月末には世界全体の国名等を出題範囲とする課題テストを実施する。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	地球上の位置	天体としての地球の特性を理解し、様々な国や地域の位置関係を考察することができる。
		2週	国家の領域と領土	国家および国家をめぐる諸問題の背景を理解することができる。
		3週	世界を結ぶ交通	世界の交通の現状や発達過程、交通が人間活動に与える影響について理解することができる。
		4週	世界をひとつに結ぶ通信	世界の通信の現状や発達過程、通信が人間活動に与える影響について理解することができる。
		5週	拡大する世界の貿易	世界の貿易の現状およびそこに生じる諸問題について理解することができる。
		6週	観光の国際化と人々の移動	世界の観光の現状およびその変化が人間活動に及ぼす影響について理解することができる。
		7週	領土問題	領土をめぐる諸問題の現状とその背景について理解することができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験解説と授業	
		10週	世界の大地形と人々の生活	世界の大地形形成の仕組みを理解し、これらが人々のくらしに与える影響について考察することができる。
		11週	山地・平野の地形と人々の生活	山地や平野の形成の仕組みを理解し、これらが人々のくらしに与える影響について考察することができる。
		12週	熱帯・乾燥帯の気候と生活	熱帯・乾燥帯の気候的特性を理解し、これらが人々のくらしに与える影響について考察することができる。
		13週	温帯・亜寒帯・寒帯の気候と生活	温帯・亜寒帯・寒帯の気候的特性を理解し、これらが人々のくらしに与える影響について考察することができる。
		14週	地球温暖化	地球温暖化の問題について気候的視点から理解し、解決の糸口を考察することができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験解説	

後期	3rdQ	1週	生活と産業（1）	農牧業の地域的特性、社会に及ぼした影響について理解できる。
		2週	生活と産業（2）	工業の地域的特性、社会に及ぼした影響について理解できる。
		3週	生活と文化（1）	世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解できる。
		4週	生活と文化（2）	世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解できる。
		5週	資源・エネルギー問題（1）	資源・エネルギー問題とその背景について理解できる。
		6週	資源・エネルギー問題（2）	資源・エネルギー問題とその背景について理解できる。
		7週	人口・食料問題	人口・食糧問題とその背景について理解できる。
		8週	民族問題	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について理解できる。
	4thQ	9週	東アジア	東アジアの地理的特性を理解し、この地域が抱える諸問題について考察できる。
		10週	東南アジア・南アジア	東南アジア・南アジアの地理的特性を理解し、この地域が抱える諸問題について考察できる。
		11週	西アジア・北アフリカ	西アジア・北アフリカの地理的特性を理解し、この地域が抱える諸問題について考察できる。
		12週	中南アフリカ	中南アフリカの地理的特性を理解し、この地域が抱える諸問題について考察できる。
		13週	ヨーロッパ	ヨーロッパの地理的特性を理解し、この地域が抱える諸問題について考察できる。
		14週	南北アメリカ	南北アメリカの地理的特性を理解し、この地域が抱える諸問題について考察できる。
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	ライフサイエンス/アースサイエンス	ライフサイエンス/アースサイエンス	地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	3	
				陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。	3	前1
				地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	3	前10
				マグマの生成と火山活動を説明できる。	3	前10
				地震の発生と断層運動について説明できる。	3	前10
				地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。	3	前10
				プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて説明できる。	3	前10
				大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。	3	前12,前13
				大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。	3	前12,前13
				大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	3	前12,前13
				地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	3	前14
	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	前3,前7,後1,後2,後5,後6
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前2,後3,後4,後8
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前4,前5,前6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	

		グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	

評価割合

	試験	ノート	課題	小テスト	課題テスト	合計
総合評価割合	75	10	5	5	5	100
基礎的能力	75	10	5	5	5	100